

# ユネスコ教育勧告とこれからの教育

## 平和を考えるシンポジウム

ユネスコ委員会

ユネスコから 1974 年に打ち出された教育勧告が 2023 年に改訂され、これを受けて令和 7 年 1 月 21 日に港区ユネスコ協会主催でこの勧告について考えるシンポジウムが開かれました。私たちは今まで委員会として取り組んできた活動の根幹にある教育について再考し、またより良くしていきたい、意見を交わすことで多角的な視点を得たいという思いでシンポジウムに参加し、意見の発表と対話を行いました。

シンポジウムではまず、明治学院大学教授、港区国際交流協会代表理事の渋谷恵先生からの、ユネスコ教育勧告についての基調講演がありました。教育勧告は元々、精神的な連帯や自由といったもののための国際的な勧告であり、未だに日本での認知度が低いといった問題に対し文化間・世代間の対話をしていくべきということをご教授くださいました。また今回の勧告の改



訂では「平和・グローバルシチズンシップ・SDGs のための教育」について追加されており、「定義の共有」等を通して進めていくべきとおっしゃっていました。

次に、聖心女子大学教授、日本ユネスコ協会連盟理事の永田先生からはユネスコ教育勧告の 14 の主導原則についてお話しいただきました。14 の主導原則は勧告の目玉となるパートで、あら

ゆる教育段階に組み込まれるべきものであり、永田先生はこの原則をわかりやすく言い換えて伝えてくださいました。その中の二つ、『コンヴィヴィアル』は和気あいあいとした共生、人の痛みを自分の痛みにする共感共苦の考え方で、『トランスフォーメーション』は変容とも言うことができ、これから教育を変えていく中で欠かせないものです。こうした主導原則に基づき、また全ての人(生徒も、周りの人も)がエデュケーターである意識をもち、みんなで創ること(コクリエーション)が必要だとおっしゃっていました。

最後に私たちは、ユネスコ委員会の活動の発表と、校内で実施したアンケートからこれからの教育について考えたことを提言しました。委員会の活動に関しては文化祭でのバザーや世界寺子屋運動について説明しました。後半は、アンケートの結果から、問題をまだ自分事に捉えられていないなどの課題を考え、「対話を中心に、知る、考える、行動すること、互いにエンパワメントしていくことが必要である」という提言をしました。

発表後は私たちの提言にあるような対話の機会を会場で設け、様々な年代の参加者の方々と意見を交わすことができました。今回のシンポジウムは、このような多様な背景をもつ人々との対話により互いに新たな視点を得て考えを深めることができた、良いコクリエーションになったと実感しています。今後も外部との交流及び対話の機会を設けることで、これからの教育について考えを深めていきます。

